

今回のテーマは、学生のみなさんがどのような夢をもって大学で学び、その夢をどのように実現させていくのかということ。生活と仕事を共に両立させて、うまくやっていくにはどうしたらよいかなど、35歳までのそれぞれのライフデザインをもとに意見交換しました。

# 私たちの考える ライフデザイン

平成28年  
9月21日(水) 10:30~  
中央図書館にて

信大生×先輩 & イクボス・<sup>あったか</sup>温かボス

Murai Yukimo  
村井 雪乃

繊維学部 化学・材料学科  
機能高分子学課程3年

まだ研究室は決まっていますが、希望は医療に活用できる高分子を学びたいと思っています。

Yabe Naoki  
矢部 直輝

教育学部 学校教育教員養成課程  
心理支援教育コース1年

スクールカウンセラーなどの心理系の職業に就きたいと考えています。

Kojima Masaaki  
小島 匡顕

大学院 総合理工学研究科  
工学専攻1年

人の動作を計測して、様々な解析をしています。将来は社会に役に立つような電化製品などを作れたらと思っています。

Tanaka Rie  
手塚 理恵

繊維学部 化学・材料学科  
機能高分子学課程3年

特に人工臓器について興味があるので、研究室ではそういった勉強ができたかと思っています。

Kamigaki Skoko  
神谷 笙子

医学部 保健学科  
看護学専攻4年

助産師を目指して勉強しています。来年4月に就職が決まり、そこに直結する勉強ができて、やりがいを感じています。



## 私たちの考える結婚・出産・育児

**神谷** 助産師の仕事は、自分が経験したことをそのまま生かせる職でもあります。学んで分かったことですが、子どもを早く産むということは、お母さんの体にとって良いことなんです。私は、2人くらいは20代のうちに産んでおきたいと思っています。就職して2・3年で1人産むくらいがいいかな。産休・育休を取って、2人目の子が落ち着いたところで職場復帰したいと思います。夜勤もある職場なので病院と相談をしながら復帰したいと考えています。

**高崎** 夜勤があると、将来的には大変ですね。

**神谷** 6月、7月に助産師実習があって、実際に赤ちゃんを取り上げました。一番初めに赤ちゃんに触れるのは自分です。看護師の実習ではそこまでやりませんが、助産師は全部自分です。赤ちゃんが生まれ、産声を聞くと、夜勤などそれまでのつらさを忘れてしまいます。

**高崎** 子育てしながら助産師の仕事は、両立できそうですか。

**神谷** 産科の病棟は、仕事と子育ての協力体制が進んでいて、まわりの理解も得やすく働きやすい職場だと思います。夜勤だけでなく、日勤や時短などシフトの工夫ができる職場です。産科医は男性でもなれますが、助産師は女性しかありません。

**小島** 僕はまず、就職できるかどうか、就職しても継続してやっていけるかどうか不安です。3年目、10年目あたりが転機になるのかな。企業では専門的な仕事につき、資格を取り成果を残したい。映画を観たり、音楽を聞いたり、おいしいものを食べに行ったりす

るのが好きなので、労働だけでなく趣味とか視野も広めていきたいなと思っています。今大学院1年でまわりには男性しかいないんです。結婚できるかどうかわかりませんが、子どもはやっぱり欲しいですね。僕は、世のために何かをすること一番の目標に生きたいので、最悪イイヒトとめぐり会えなくてもいいのかな。

**高崎** 夢はなんですか。

**小島** 夢は誰かのために命を捧げることです。まだいろんな職業に興味があって、決めかねていますが、例えば警察官だったら誰かを救って死ぬ。

**全員** 死んだらダメでしょ！

**岩波** 若い人は、愛する人が死んだらダメだよ。悲しむだけだよっていかかもしれないけど。50代半ばくらいだったら、夫が退職金と保険金をたくさん残してくれたらすごいハッピーだと思う。

**野村** 怖〜い！

**高崎** 自己紹介では、社会に役に立つものを作りたいと言っていましたけれど、具体的には何ですか？

**小島** いろんな人がスキルアップできるような助けになるシステムとか、電化製品とか、人の暮らしをハッピーにできるものを作りたいです。

**神谷** 結婚はいつでもいいと思うのですが、子どもをもつ適齢期があるので、相手の女性の年齢とかも考えてあげてほしいなと思います。

**小島** わかりました。若い子と結婚したらいいですね。

**全員** (笑)





## 専業主婦というイメージしかない

**村井** 私は大学院を修了して就職したいと思っています。27歳くらいで結婚して、1年くらいは夫婦だけで過ごしたい。それから子どもを2人産めたらいいなと思っています。離乳食を食べられるようになるのが半年ぐらいからと聞いたので、最低でも半年から1年くらいは育休を取って、2人目の子どもが3歳になるまでは短時間勤務をして、それからフルタイムで復帰したい。そしてキャリアを積んでいきたいと思っています。

**高崎** 具体的にどんなお仕事を就きたいですか。

**村井** できれば研究職です。研究職はやはり女性がすごく少ないので、育休や短時間勤務に理解があるかどうか不安です。

**小島** キャリアを積むってなんですか？

**村井** 言われたことをこなしているだけじゃなくて自分から進んで研究・開発に取り組んでステップアップしたい。地位を上げたい。バリバリ自分の価値を高めるといことです。

**高崎** 身近に、同じような道歩んでいる人はいますか。

**村井** 実は、ずっと専業主婦の母しかみていないので、家にいる女性のイメージしかありません。この未来図は手探りで、理想なんです。

## スクールカウンセラーになりたいけど

**矢部** 私はできれば大学院に進み、臨床心理士などの資格を取って心理系の職業に就こうと思っています。就職してすぐの結婚は、貯蓄もなく財政的に無理だと思うので、理想では27歳くらいに結婚できたらなと思っています。子どもは29歳くらいに第1子が欲しいと思いますが、産むのは女性なので相手を尊重したいと思っています。育休を取って、妻だけに育児を任せたくないです。それから2年後くらいに第2子をもうけ、できるだけ仕事と家庭を両立させて働けたらいいなと思っています。

**小島** どうして心理系に進みたいんですか。

**矢部** 高校生の時に、学校付きのカウンセラーにかかわることがあって、働きすぎで鬱うつになったり、メンタル的に苦勞してい

る人が多いと聞きました。こういう人たちの手助けをしたいと思ってカウンセラーの職に就きたいと思い進みました。

**高崎** 今、大学で授業を受けているわけですが、矢部さんの理想とする方向に進んでいますか。

**矢部** 心理系に進みたいという気持ちは変わっていないのですが、スクールカウンセラーはものすごく給料が低いということを知りました。学校は夏休みや長期休暇があったりするので働く時間も限られるからです。そのような理由から、カウンセラーになることを迷っています。

**岩波** 結構大変だと思いますよ。

## 大企業への就職

**手塚** 私は大企業の研究職に就きたいので、大学院に進学したいと思っています。大企業に就職したい理由は、お給料のこともありますが、一番の理由は大きい会社の方が新入社員を教育する余裕があるからです。そして社会人3年目頃に結婚。そのあと29歳か30歳頃に出産したいです。

私の悩みどころなんですけれど、一つは出産後に育休を取得して、その後職場復帰する。せっかく勉強してキャリアを積んだら、バリバリ仕事を続けたいと思います。もう一つの考えは、仕事をやめて専業主婦になる。私の母も専業主婦だったので、母が家にいてくれると安心感があったので、育児に専念し、子育てが落ち着いたたら再就職するという事です。

**野村** 研究職に就くのだったら、大学院に行くのは賛成です。問題は、出産、子育てですね。育休の話が出ましたけど私は取っていません。できるだけ子育てには参加しようとしています。難しい。夫となる人と相談しながらでいいのかなと思います。

**岩波** 大企業に再就職できたとしても、同じ条件で入るのは難しいですよ。信州大学には非常勤の短時間雇用の方がいますけれど、1日6時間週5日間でお給料はだいたい月12・3万円です。35歳くらいの常勤事務職員は25万円ちょっとですかね。そのくらいの差がつきます。

**高崎** ボーナスも違いますよ。

**岩波** それが大きい。非常勤にはボーナスがないので、年間で相当の差が出ます。みなさんが大学院まで行くと授業料はもちろんかかりますが、国もお金を出しているんです。半分以上は国がお金を出していると思った方がいいです。それを将来かけて税金を払うという形で国に返し、社会に還元する。できれば頑張って職場復帰してほしいと思います。

**高崎** みなさんのライフプランを聞いて、20歳前後ですでにしっかり計画を立てていらっしゃると思いました。



*Iwano Mitsuho*  
**岩波 峰子**  
信州大学附属図書館  
図書企画幹  
中央図書館の仕事と、6館ある附属図書館全体の調整もしています。現在本学の事務系管理職の女性は2名で、私はその一人です。



*Nomura Takao*  
**野村 隆臣**  
学術研究院繊維学系助教  
応用生物学科  
繊維学部機能高分子学科卒業。信州大学に誇りを持ってほしい。その一端を担っていきたいと思ってやっています。





## 私たちが<sup>はたち</sup>二十歳だった頃

**野村** 私が二十歳のとき、阪神淡路大震災があったんです。そこから考え方が変わり、先を考えるようになりました。就職先は、手塚さんも言っていたように大企業に行つてやろうと思っていました。結果大企業に就職でき、何が良かったかというところと教育の面は確かに良かったし、産休育休に対しての理解もありました。もちろん男性にも育休はあったんですが、私の知る限り誰も取っていませんでした。私はメーカーに勤めていたので、自分が携わったものが店頭と並んでいるのを見るとモチベーションが上がりました。物を作るって楽しいじゃないですか。

**高崎** 先生の35歳は理想どおりでしたか。

**野村** いいえ。二十歳の時は特に理想もなく進路も決めていませんでした。35歳は、試行錯誤、自分の中で葛藤しながら大学で働いていました。みなさんも人生の岐路では悩むと思うんですよ。私はいっぱい後悔しています。こうしていたらよかったかなとか。会社を辞める時はまわりからものすごく怒られました。その時はベストの判断だと思っていましたが、子どもだったかなと思います。

**小島** なぜ自分の意志を通したんですか。

**野村** 学生時代、研究室に入るときに、実は妥協したんです。ほかにいきたいという子がいたので譲りました。そのせいで、自分のやりたい研究は大学院での2年間しかできなかったんですよ。会社に入る時も、自分の中ではまたどこかでこの研究に戻ろうかなと思っていました。結果私の中では、大学でやりたかったことが勝ったって感じですかね。

**神谷** その時に戻れたら、後悔している方の道を選びますか。

**野村** 多分同じように会社を辞めていると思います。大学で、あなたたち若い子と一緒に頭を使えることは楽しいです。

**岩波** 私は、短大を卒業して国家公務員になりました。あまり先のことは考えなかったのですが、自分の力で自分のご飯を食べたいと思ったので、一番安定している大企業だと思って、国家公務員になりました。富山県の大学に就職し、27歳で結婚、相手が長野県の人だったので、40歳の時に信州大学に異動させてもらいました。先ほど大企業の場合は、育休などいろんな制度も整備されているし、何よりも社員の育成ということにも力をいれているということでしたが、たぶんそれは本当だと思います。CSRレポートや社会貢献に関するレポートは、大きな企業は必ず出しているの、そういうのを見ると制度とか利用率などがわかりますね。

**村井** 職場で女性であるが故の差別とか、理不尽な扱いをされたことはありますか。

**岩波** 軽くみられていたと感じたことはありました。男性が対応すると話がまとまるのに、私が出ていくと説明だけで終わってしまうということがありました。昇進も2・3年は遅かったですね。年功序列でしたが男性から先に昇進するということはありませんでした。

**野村** そうだったんですか。

**高崎** 私が二十歳の頃は、女性が働くとしたら教員か公務員という選択しかない、そんな時代でした。たまたま卒業研究がおもしろくて大学院に行き、大学院が終わった時に、学生結婚しました。子どもが生まれてから短大の教員として働き始めましたけれど、その頃、そもそも育休がないんです。自分の給料は全部ベビーシッターさんにつき込みました。それがずっと続くわけじゃなくて、数年間のことと割り切っていました。困ったときは、ベビーシッター協会と友達が頼りでした。一人ですべてやろうと思うと回らなくなってしまうので、いろいろな話を聞いて、困ったときは人に相談することが大切です。みなさんも多くのことを吸収して、お友達をたくさんつくり、充実した学生生活を送ってください。

## Special Thanks!



## 座談会を終えて

**神谷**：他学部の方と関わることがなかったので、楽しかったです。

**小島**：他の人の生き方・プランを聞いたり、自分の作ったプランを話したりして、よりイメージが濃くなりました。

**村井**：違う学部、違う学年の人との貴重な機会、参加して良かったなと思いました。本当は、結婚するのは30歳でいいかなと思っていましたが、早めがいいと聞いたのでそうしたいです。

**矢部**：この中で僕だけ1年生でしたが、先輩方のライフスタイルなどいろんな話を聞くことができて、ためになりました。先生方の体験なども自分の将来を設計するうえで大切な話でした。

**手塚**：育休に関してどう思っているのか、男性の意見を聞けたのは貴重でした。繊維学部は女性の先生が3人だけで、まわりにキャリアを積んだ女性がいる状況ではないので、今日はためになる話が聞けて良かったと思いました。

**岩波**：私の部下が昨年10月に1か月だけ育休を取りました。本人にとって、赤ん坊の世話をすることがとても成長になったと思います。一時職場を抜けるには、自分の仕事を引き継いでわからないことがないように段取りを踏まなければならない。その準備をするということもいい経験になるので、男性も積極的に育休を取ってほしいと思います。

**野村**：私が二十歳くらいの時は何も考えていなかったのですが、今日のような機会があると将来のことを考えるきっかけとなり、いいですよ。私は、子どもができてから価値観や優先順位など人生だいぶ変わりました。

**高崎**：せっかく信州大学という集団の中にいるのですから、塊の中のつながりを大事にして、みなさんそれぞれのライフプランを実現する方向で頑張っていたいただければと思っています。

